

通学路総合交通安全マネジメント ガイドライン

2019年2月1日
大宮ソニックシティ

林 隆史

学ぶ

児童・生徒・一般



(公財)国際交通安全学会・HP

学び・進める

父兄・一般・行政



学び・進め・実現する

地域リーダー・行政担当者



(一社)交通工学研究会・丸善出版

通学路総合交通安全マネジメントガイドライン



～全体構成～

I. ワークショップの運営マニュアル

ワークショップの概要

- 通学路の交通安全対策にかかるワークショップの概要を説明する

ワークショップの実施方法

- ワークショップの各回の内容について、具体的な流れに沿って説明する。

付録：ワークショップ運営資料集

- ワークショップで利用する資料について、ワークショップ進行マニュアルや住民への説明資料の例を紹介する。

II. 対策編

⇒ 検討に必要な対策の概要のみ記述

III. 調査・分析編

⇒ どのような調査があるかを記述

→ 他の発表で詳細に解説、マニュアルに詳述

ワークショップとは

ワークショップの参加者

地域住民・PTA・学校関係者

警察・自治体関係部署・道路管理者(国・都道府県) 等

→ 対象は広く設定し、漏れの無いように！

関係する方には参加してもらおう



参加者全員で学び、理解し、考え、結果を導き出す

地域の抱える問題点を整理して、共有化する

一緒にまちの現状を見る
客観的なデータを活用する



参加者が正確な情報を共有

対策案を考える

目的: 子供達の安全を守る
個々の立場や状況を考慮



参加者が納得できる対策案

対策案を合意形成し、進める

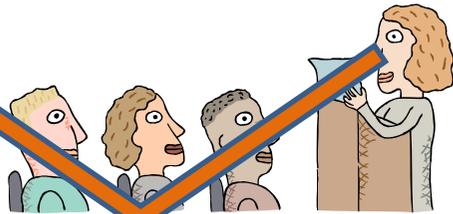


参加者全員のベストでは無い
が納得できるもの

ワークショップとは

リラックスした雰囲気の中で、全員の意見を聞く

~~教室型
説明会~~



~~背広
会社~~

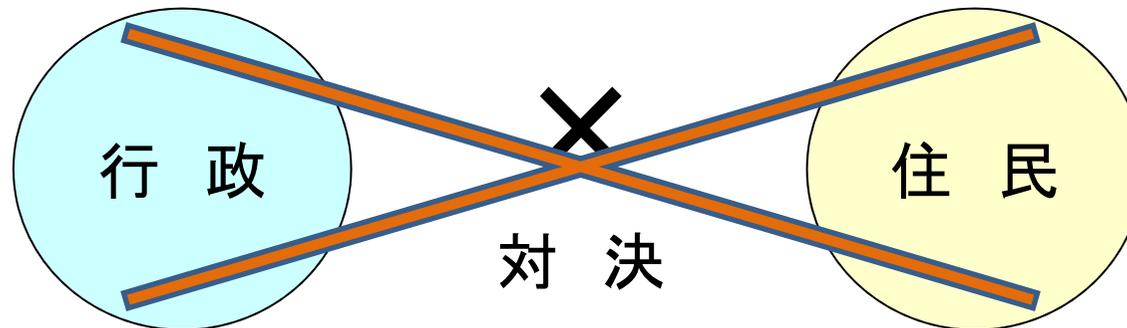


テーブル型
WS方式



普段着
自宅

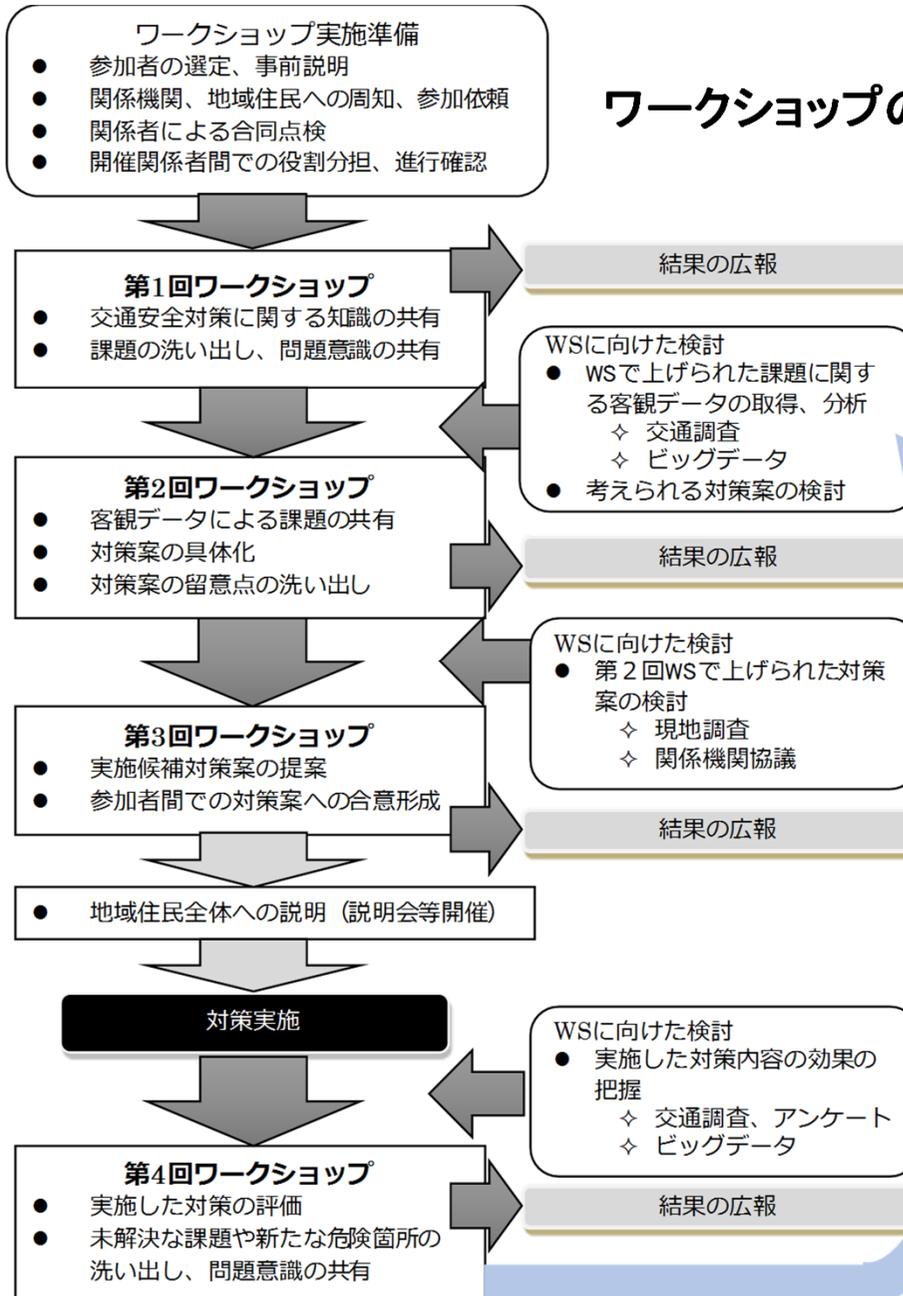
事業者の説明会ではなく、一市民としてみんなで一緒に考える



I.ワークショップの運営マニュアル

ワークショップの基本的な流れ

情報提供
参加できなかった方へ



第1回
交通安全の知識の共有
地域の課題・問題の共有

第2回
客観データによる課題共有
対策案の具体化

第3回
対策案の提案
合意形成

第4回
対策案の評価
未解決な課題・問題意識の共有
⇒フィードバック

第1回ワークショップ

1. 第1回ワークショップ実施準備

1.1. 参加者への参加依頼

- (1) 参加者の選定
- (2) 代表者への事前説明
- (3) 開催通知の作成
- (4) 参加依頼

1.2. ワークショップ進行準備

- (1) ワークショップ進行マニュアルの作成
- (2) 関係者間での役割、ワークショップ進行マニュアルの確認

1.3. 会場準備

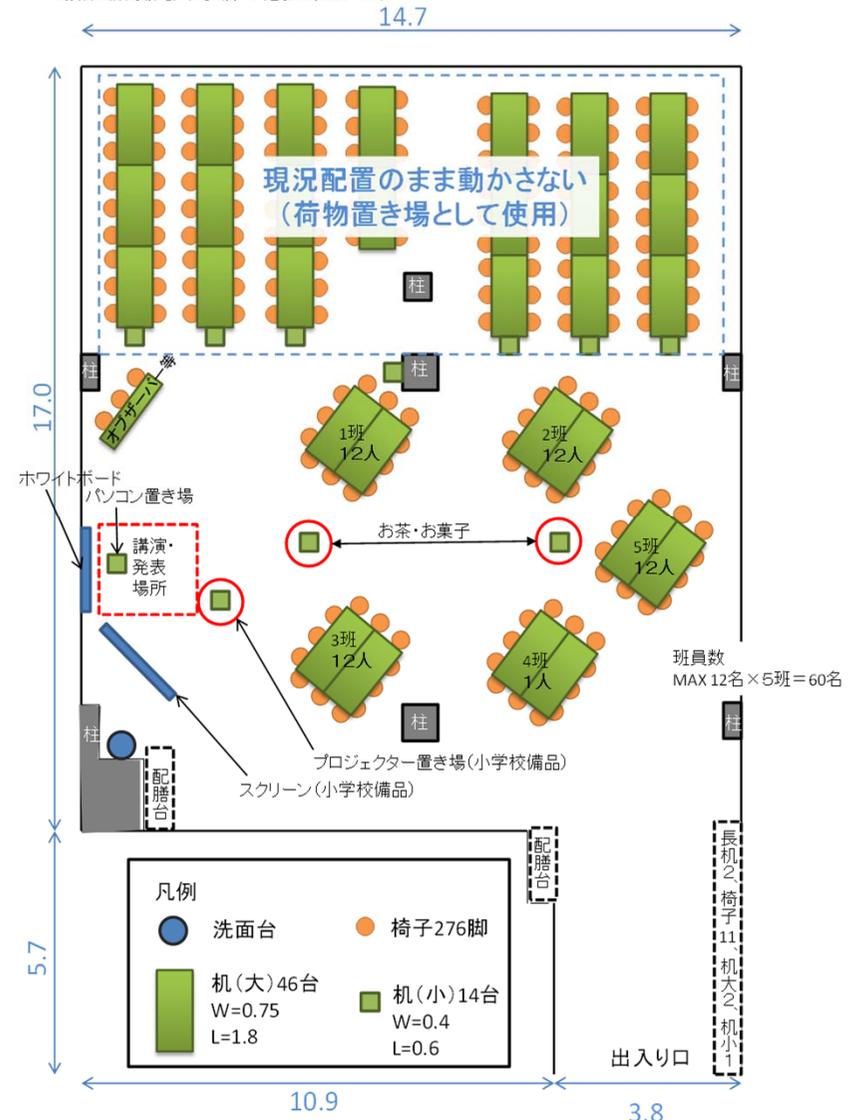


付録にすぐに使える資料を添付

第1回勉強会(ws) 会場配置図(案)

日時: 平成28年7月6日 18時~20時頃
場所: 新潟柳部中学校 1階ランチルーム

※単位:m
※1メッシュ:2m×2m



会場レイアウトの例(新潟市提供)

第1回ワークショップ 付録:プログラム

付録1.1 開催案内

付録2.1 第1回ワークショップ進行案

付録2.1 参加予定者一覧表 テーブルマネージャー・記録係配置 会場配置図

付録2.1 準備品リスト



使用場所	名称	数量	準備担当			
			市〇〇課	〇〇小学校	学校備品	大学等協力者
会場	机 (大)	14			○	
	机 (小)	4			○	
	椅子	87			○	
	長机	1			○	
	ホワイトボード・マーカー	1			○	
	スクリーン	1			○	
	プロジェクター	1	○		○	
	延長コード	1	○			
	パソコン (説明用)	1	○			○
	デジタルカメラ	2	○			○
	指し棒	1	○			
	延長コード	1	○			
	ワイヤレスマイク	2		○		
	スピーカー	1		○		
	ドラム式延長コード	1		○		
	軽食・お菓子	適量				○
	ジュース・お茶	適量				○
	テーブルクリーナー	2	○			
	ビニール袋 (ごみ袋)	10	○			
	班テーブル	通学路安全マップ (A1版)	10	○		
通学路安全マップ (A3版)		100	○			
付箋紙 ピンク□7.5cm		20	○			
付箋紙 青□7.5cm		20	○			
付箋紙 黄緑□7.5cm		20	○			
付箋紙 黄色□7.5cm		20	○			
油性ペン カラー ※机に裏写りしないもの (例: 三菱プロッキー等)		10セット	○			
班名表示		10	○			
模造紙白A1版 ※罫線があるとよい		10	○			
受付		個人名札用のシールシート	15	○		
	名簿 (記入用紙)	10	○			
	記名用ボールペン	10	○			
	次第	100	○			
玄関・廊下	案内板	5			○	
	案内表示の紙	5				
	スリッパ	適量			○	
	玄関前ブルーシート (設置き場)	1			○	

第1回ワークショップ 付録:プログラム

0) 集合(18:00) (集合場所、会場名)

1) 全体挨拶 (10分程度)

- ・〇〇小学校校長先生、
- ・〇〇地元代表(見守りボランティアなど)、
- ・WSの目的の説明(行政)

2) 交通安全に関する講演 (20分程度)

- ・交通安全に関する講演(行政、専門家等)

3) 班ごとのグループディスカッション (1時間程度)

①自己紹介(名前、住まい等) (5分程度)

②全体説明:WSの方法・ルールの説明 (10分程度)

※以上までの時間は短くてもよい。余った時間は議論の時間とする

③通学路の現状:問題点と改善案の抽出 (20分程度)

- ・テーブルごとに大きな地図を用いて、皆さんの意見を書いたポストイット(付箋)を貼ったり、地図に書き込んだりしていく
- ・班で意見をまとめる

④手段の検討 (15分程度)

- ・テーブルごとに大きな地図を用いて、皆さんの意見を書いたポストイット(付箋)を貼ったり、地図に書き込んだりしていく
- ・今後、各主体でできることについて、班で意見をまとめる

⑤班の意見をまとめる (10分程度)

- ・班の意見を模造紙にまとめる、
- ・班の発表タイトルを決める。

4) 全体ディスカッション (25分程度)

- ・班の代表者による発表、
- ・質疑応答、
- ・まとめ

5) その他、終了・解散 (5分程度)

第1回ワークショップ 付録:プログラムの詳細

グループディスカッション

①自己紹介(5分程度)

時間進行	具体的な作業内容	留意事項
18:30 ~18:35	<グループ顔合わせ> テーブルマネージャー、参加者の自己紹介	

進め方の例 (テ:テーブルマネージャー、記:記録係)

まずは、全員のネームプレートを見ながら全員に自己紹介を促す。

テ「それでは、今日は第一回ということなので、まずは簡単に自己紹介をしましょう。」

テ「私は〇班のテーブルマネージャーを勤めさせていただく〇〇と言います。よろしくお願ひします。」

記「私は〇班の記録係を勤めさせていただく〇〇と言います。よろしくお願ひします。」

テ「簡単にどこの地区にお住まいかとお名前をお願いします。それでは〇〇さんから、お願ひします。」

テ「はい、次は〇〇さんお願ひします。」

第1回ワークショップ 付録:プログラムの詳細

グループディスカッション

②全体説明:WSの方法、ルールの説明(10分程度)⇩

時間進行⇩	具体的な作業内容⇩	留意事項⇩
18:35~18:45⇩	<ディスカッション準備>⇩ ワークショップのルールを説明する。⇩	⇩
進め方の例(テ:テーブルマネージャー)⇩		
テ「それでは、WSのルールについて説明します。」⇩ <WSのルール>⇩ ① 他の人の意見やアイデアを否定、非難するような発言は控え、自分とは違った考え方や視点も大切にしましょう。⇩ ※テ:違う考えを述べるのがいけないのではなく、あくまで否定するような発言を控える旨を説明します。また違う考えについてはその理由も述べるようお願いいたします。⇩ ② 発言にあたっては、なるべく専門用語の使用は避けましょう。もし、どうしても使用する場合には、みんなにもわかるように解説しましょう。⇩ ③ なるべく多くの方が議論に参加できるように、発言はできるだけ短く簡潔にするように心がけてください。⇩ ④ 話し合いの中で、疑問点も出てくると思います。テーブルマネージャーが答えられないものについては周りのスタッフがお答えいたします。⇩ 最後に、「第一回なのでみなさんの名前を覚えていくためにも、できるだけ発言の前に名前を言うようにしていきましょう」と伝える。⇩		

第1回ワークショップ 付録:プログラムの詳細

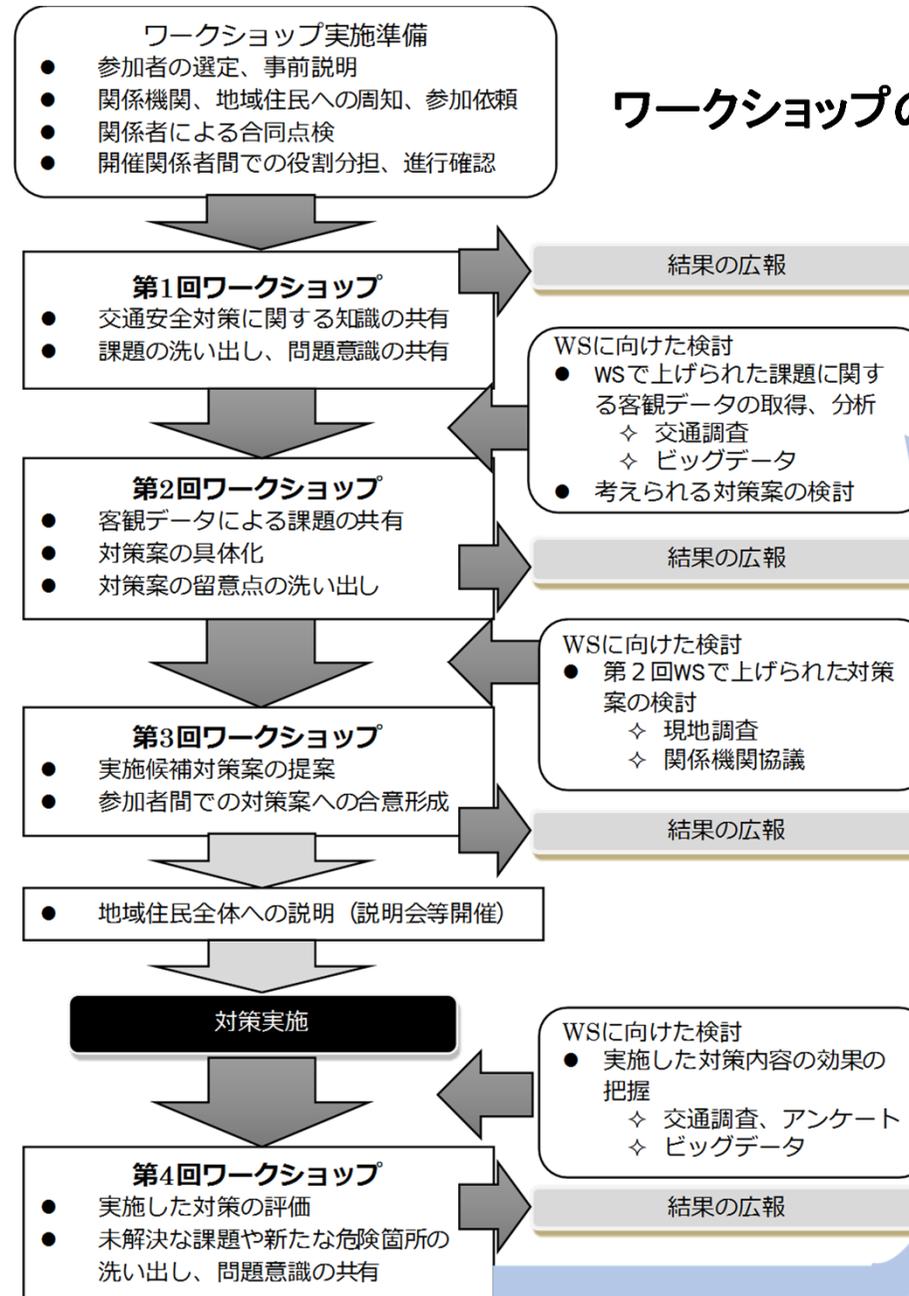
グループディスカッション

③通学路の現状:問題点と改善案の抽出(20分程度)

時間進行	具体的な作業内容	留意事項
18:45 ~19:05	<p><グループ意見交換></p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を一人ずつ発表してもらい、地図上にポストイットを置く。 議論の中で新たに気づいた点があれば付け足す。 どのように改善されるとよいか考えてもらう。 	<p>ポストイットは、●●●(ピンク)、○○○(青)、□□□(黄緑)、高齢者や子供の視点(黄色) ※項目別に色分けすると良い</p>
<p>進め方の例 (テ:テーブルマネージャー、記:記録係)</p>		
<p>現状の把握</p> <p>テ「*小学校周辺の交通安全について、<u>現状の課題</u>や<u>今後想定される課題</u>、既に取り組まれていることについて確認していきましょう。ご発言の前には、どの視点(自動車、自転車、歩行者、高齢者、子供)からの意見であるかを言うようにしてください。では○○さんからお願いします。」</p> <p>一人ずつ順番に発表してもらう。</p> <p>※参加者が意見発表しているときは、笑顔とうなずきを忘れずに。</p> <p>※発表者と同意見を発表途中に言う参加者がいた場合は、それぞれ順番に発表してもらう。</p> <p>記:発表していただいた意見をポストイットに書き写す。地図上の問題のある地点に、シールやペンで印をつけてポストイットを置く。</p> <p>※色分け:●●●(ピンク)、○○○(青)、□□□(黄緑)、高齢者や子供の視点(黄色)</p> <p>※似たような意見はまとめて、多く出される意見は書き出しておくと後でまとめやすい。</p> <p>↓</p> <p>疑問点、今後確認すべき内容の洗い出し</p> <p>テ「次に、これまで挙げられた課題を参考に、疑問点や、今後確認が必要なことがらについて、確認していきましょう。では○○さんからお願いします。」</p> <p>↓</p> <p>意見が偏る場合は、他の視点からの意見を促してみる。</p> <p>テ「○○の視点ではこのような場所が危険ということであるが、他の視点で考えてみるとどうですか?」</p> <p>※テ:ただし、危険箇所の意見を吸い上げることが目的なのですべての立場(自動車、自転車、歩行者、高齢者、子供)からの意見がでなくても、無理に聞く必要はない。</p>		

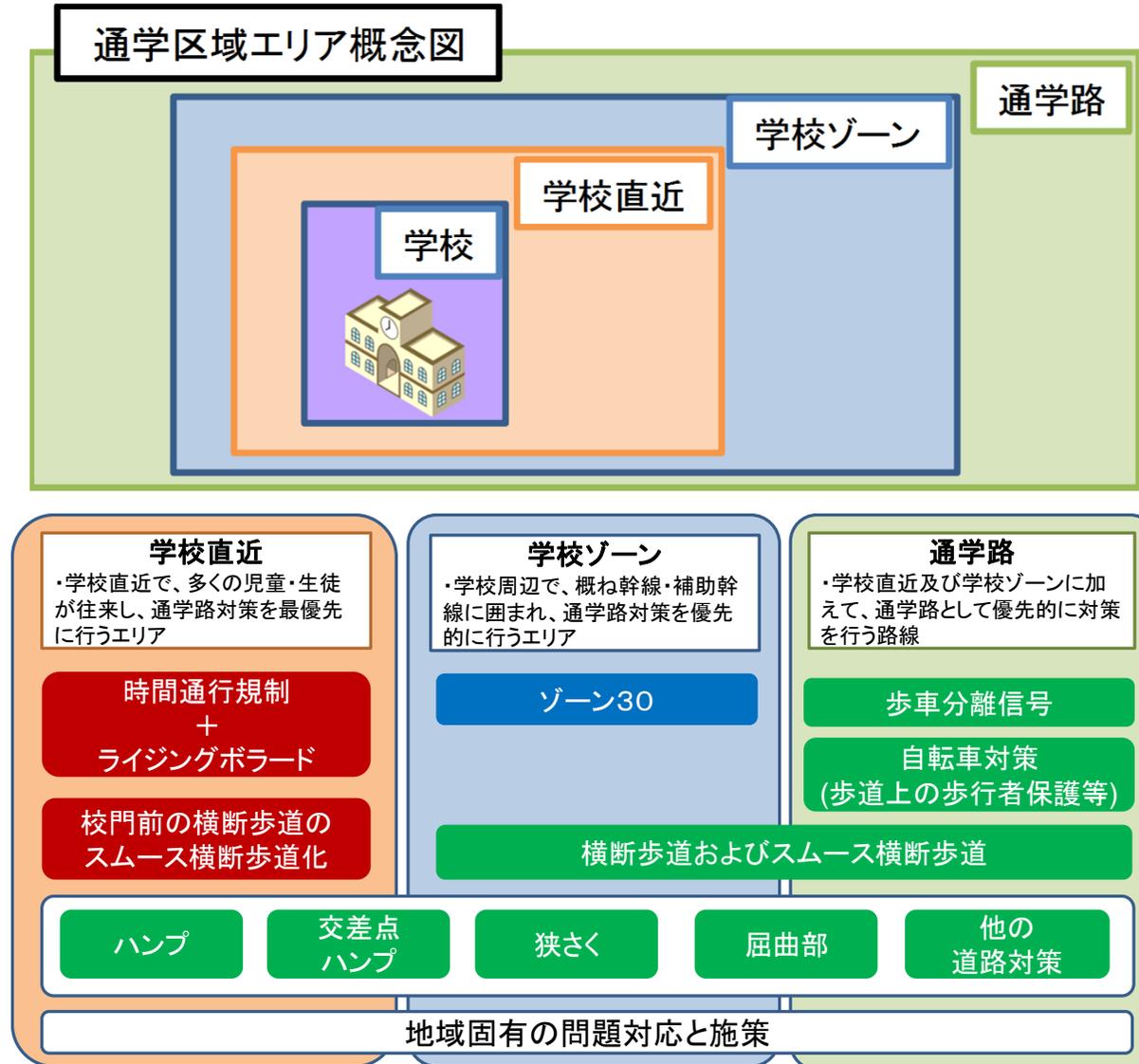
I.ワークショップの運営マニュアル

ワークショップの基本的な流れ



Ⅱ.対策編

対策選択の概要



通学路の特徴を踏まえた対策のポイント

状況別施策2 **最優先に検討**

児童や生徒が集中する学校前の道は、歩行者専用！



時間帯通行規制
+ライジングボラード

状況別施策1 **最優先に検討**

児童や生徒が集中する校門前は、スムーズ横断歩道をシンボルに！



スムーズ横断歩道

状況別施策3

学校周辺で特に児童や生徒の安全を守るべきエリアは、速度規制を！



ゾーン30



学校直近

ゾーン30

通学路

状況別施策4

児童や生徒の横断箇所は、車と分離！速度抑制！



歩車分離信号



交差点ハンプ



クランク



スラローム

状況別施策5

自動車の速度が速い道、通過交通の多い道は、道路構造を工夫して慎重な運転を！



ハンプ

状況別対策

対策1 児童や生徒が集中する校門前は、スムーズ横断歩道をシンボルに！

【対策1】スムーズ横断歩道の設置			
対応する問題点	対策のメリット	望まれる条件	備考
学校付近であることを意識せず運転するドライバーが多く、歩行者優先となっていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライバーへの歩行者優先の意識付けができる ・速度抑制が見込める 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道がある場合 ・無信号の場合 ・幹線道路でない場合 	スムーズ横断歩道が設置できない場合は、校門前後にハンブを設置



対策イメージ	スムーズ横断歩道	ハンブ(スムーズ横断歩道が設置不可の場合)

事例写真



Ⅲ.調査・分析編

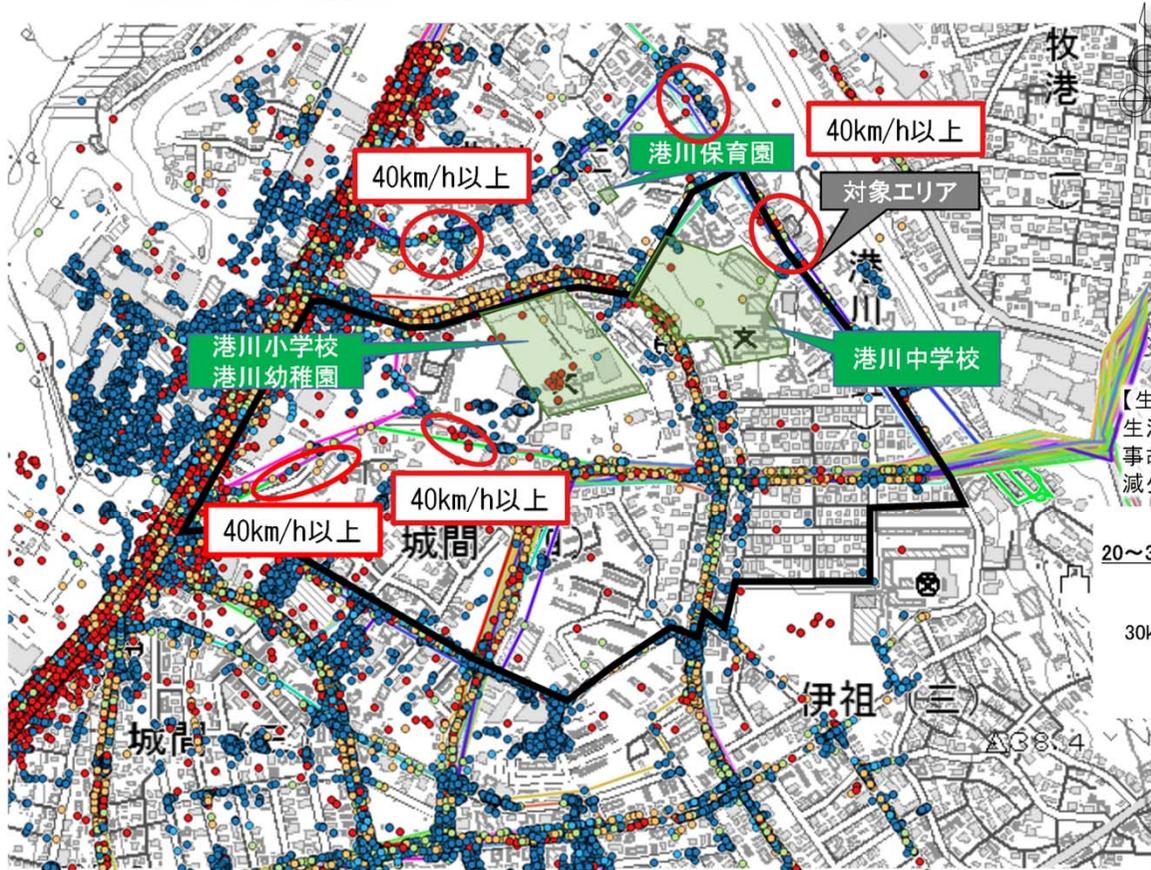
調査の概要

調査項目		内容	把握方法
1. 交通安全	①交通事故発生状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地区における交通事故発生件数 ・交通事故の発生場所、種別、発生時間等の状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故データ（警察） ・生活道路事故メッシュ図（（公財）交通事故総合分析センター）
	②交通事故危険箇所の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内で交通事故の危険な箇所の把握 ・急ブレーキや急ハンドル等の交通挙動の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ地図（住民アンケート） ・安全総点検 ・ビッグデータ（ETC2.0）解析（国土交通省）
2. 交通環境の状況	①交通量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の主要箇所の自動車、歩行者、自転車交通量の状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量調査（車種別、時間別、方向別交通量） ・ビッグデータ（ETC2.0）解析（国土交通省）
	②走行速度の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・任意区間の自動車の走行速度の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードガン ・ビデオ調査 ・ビッグデータ（ETC2.0）解析（国土交通省）
	③通過交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の通過交通の状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナンバープレート調査 ・ビッグデータ（ETC2.0）解析（国土交通省）
	④路上駐車状況	<ul style="list-style-type: none"> ・路上駐車や駐輪の箇所、時間帯、台数等の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・路上駐車駐輪調査
3. 地区の状況等	①地区の道路・交通規制等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・道路構成や幅員、交通規制（一方通行、ゾーン30等）、通学路状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図情報 ・道路台帳、現地踏査

3.通過交通の現状（港川小）

- 小学校周辺の歩道が無い、もしくは歩道が狭い道路に、40km/h以上の速度の分布が確認でき、危険な状況である。

【通過交通の速度】



凡 例	
0～20km未満	●
20～25km未満	●
25～30km未満	●
30～40km未満	●
40km～	●

【生活道路における速度別の致死率】
生活道路では、30km/hを超えた車両と超えない車両で事故による致死率(=死者数/死傷者数)が1/4と大幅に減少する。



30km/hを超えると死に至る確率が大幅に増加

【データ出典】
速度データ: ETC2.0(H28.4-H28.6)
背景地図: 電子国土Web

資料提供: 内閣府沖縄総合事務局